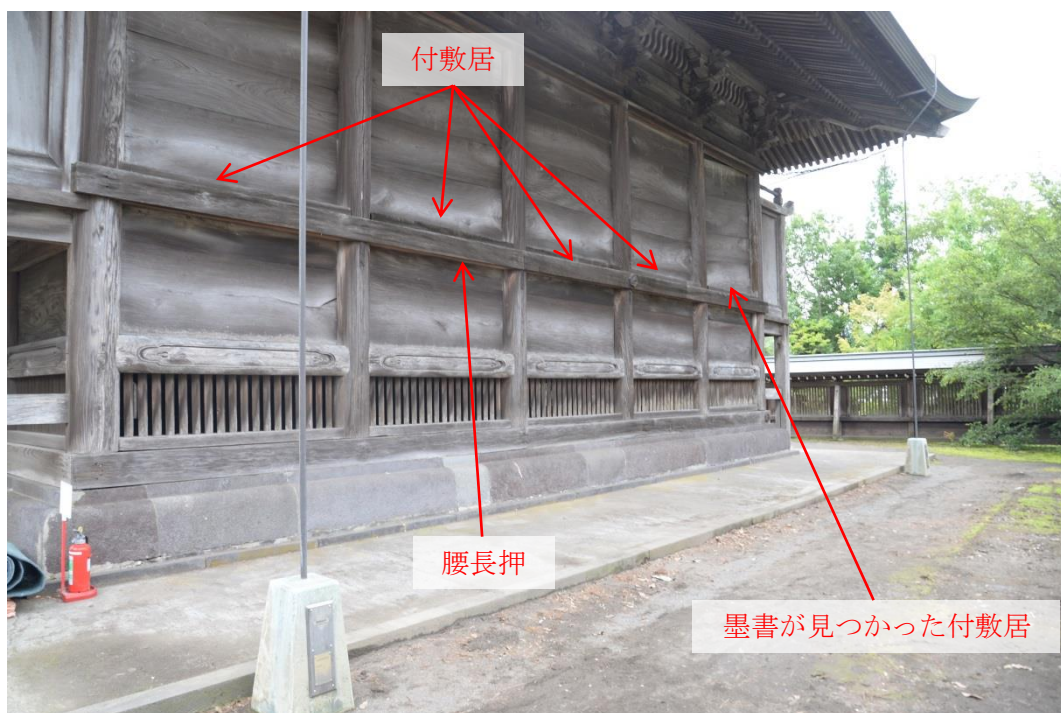


修理工事こぼれ話⑬ 一の神殿の造営・修理に関する墨書

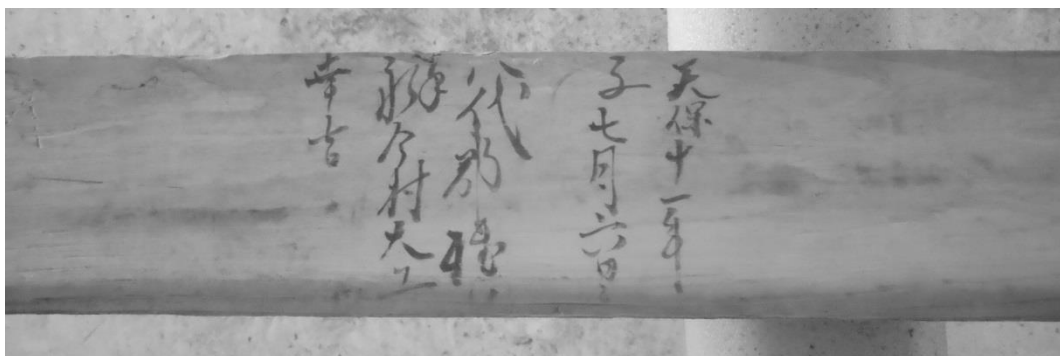
6月より一の神殿の修理工事が始まり、解体・補修・調査を行っています。工が進むにつれ、様々な箇所にかかれた墨書が残っていることが明らかになってきました。その中には、造営時や修理時の年号や大工さんの名前等がわかるものもありました。今回はそれらの墨書を紹介します。

1. 造営時の墨書

今まで、一の神殿の建物そのものからは造営時の年号を示す墨書は発見されていませんでした。今回の修理で背面の一部を解体したことで、付敷居（つけじきい）に書かれた墨書が発見されました。



一の神殿 背面
腰長押の上に取り付いている部材が付敷居



発見された墨書

幸吉	手永 今村 大工	八代郡 種山	子七月 六日 □	天保十一年
----	----------------	-----------	----------------	-------

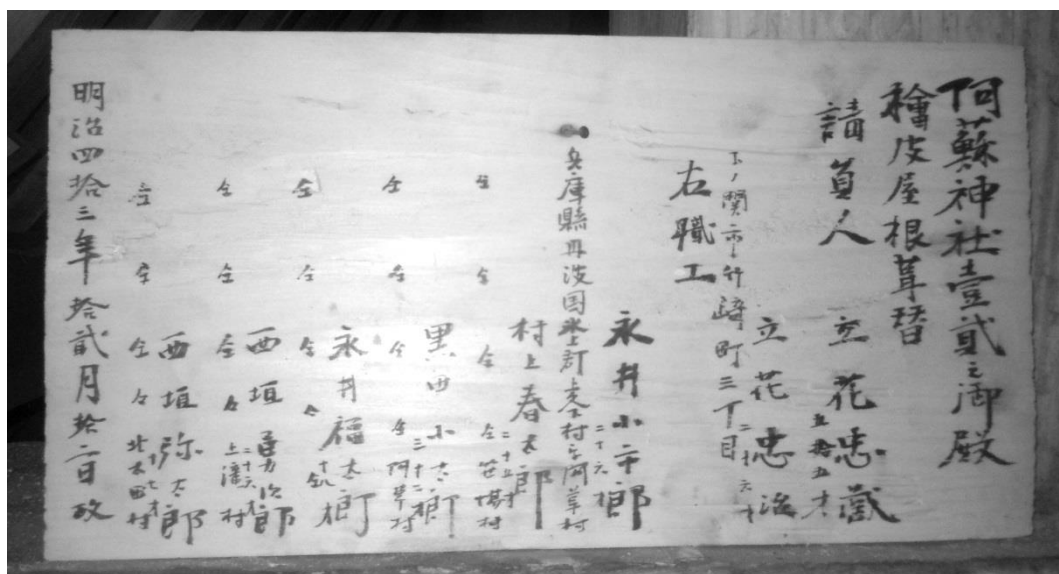
一の神殿は、天保 10 年(1839) 3 月 18 日に造営が開始され、天保 11 年(1840) 3 月に棟上、天保 11 年(1840) 11 月 28 日に上遷宮が行われたという記録が残っています。そのため、この付敷居の墨書は、棟上と上遷宮のちょうど中間の頃に書かれたこととなります。

また、この幸吉という大工さんの名前は、一の神殿以外の阿蘇神社の建物に書かれた墨書も含めても初出の名前です。八代郡の種山手永の今村という村の大工さんだそうですが、今村は現在の八代郡氷川町にありました。棟梁である水民元吉の故郷である現在の宇城市小川町河江に比較的近く、水民元吉とともに阿蘇に来た大工さんかもしれません。

2. 檜皮葺へ変更時の墨書

一の神殿の屋根は現在は銅板で葺かれています。建てられた当初は木の薄い板で葺かれた柿葺（こけらぶき）というものでした。そして、明治 43 年(1910) にヒノキの皮で葺く檜皮葺（ひわだぶき）という屋根に変更し、その後銅板葺に変更されています。

明治 43 年(1910) に檜皮葺に変更されたことは記録に残っているのですが、一の神殿の屋根裏から、その時の年号と関わった職人さんの名前などが書かれた板があることが確認されました。元々は近くの部材に釘止めにしていたようですが、発見した時には梁の上に伏せて置かれていました。



屋根裏の墨書が書かれた板

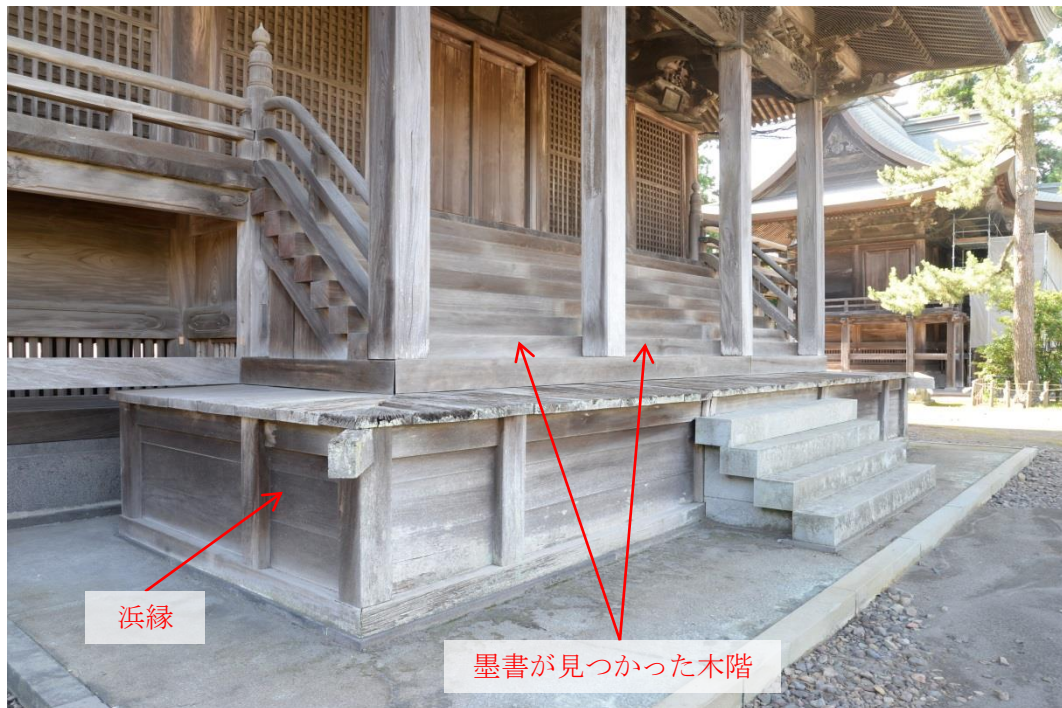
全	全	全	全	全	全	兵庫縣丹波国氷上郡上久下村字阿草村	右職工	下ノ関市竹崎町三丁目	請負人	阿蘇神社壹貳之御殿
全	全	全	全	全	全	村上春太郎		立花忠蔵		檜皮屋根葺替
全	全	全	全	全	全	二十五才	永井小市郎	立花忠治	立花忠蔵	
全	全	全	全	全	全	三十二才	二十六才	五拾五才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		
全	全	全	全	全	全	阿草村	上太田村	二十六才		

請負人である立花忠蔵という方は、大正6年(1917)の楼門屋根を檜皮葺に葺替えた工事も請け負っている方です。この墨書から下関の方だということが明らかとなりました。

また、屋根職人さんたちですが、兵庫県の氷上郡上久下村という現在の丹波市の職人さんが阿蘇まで来て工事を行っていたようです。

3. 昭和10~20年代に行われた事業の墨書

昭和15年(1940)から昭和23年(1948)にかけて、阿蘇神社では神殿・楼門等の修理や拝殿等の造営事業が行われました。一の神殿では屋根の葺替や内部の改築、浜縁(はまえん)・木階の改築などが行われました。その時に書かれた墨書が木階の継手から発見されました。



一の神殿 正面



木階 継手の墨書

昭和十七年七月
四日之納
岩永義雄

昭和十七年
七月四日
之納
三ヶ尻□□

記録によると、一の神殿の修理工事は昭和16年(1941)12月に着工し昭和18年(1943)4月に竣工しています。墨書の昭和17年(1942)7月というのは、工事の真っ只中であつたと思われます。

左の写真の墨書を書いた岩永義雄という大工さんは、楼門の門扉にも墨書として名前を残しています。神殿・楼門の修理は、同じ大工さんで一連の工事として行われていたようです。また、同時期に三の神殿も修理を行っていますが、廻縁(まわりえん)の縁板(えんいた)の側面に「和田正兼」という大工さんの名前が書かれた墨書が残されており、岩永義雄さんと三ヶ尻さんとともに阿蘇神社で一緒に仕事をしていたようです。この時の事業に関わった職人さんの名前が書かれた板が一の神殿の箱棟の中に取り付けられているということが、2004年から2005年に行われた屋根葺替工事のときに明らかになっていますが、今回は屋根は解体しないので確認できませんでした。

以上、一の神殿の造営・修理に関する墨書を見てきました。こういった建物に残された墨書があることによって、どの年代に造営や修理が行われたかということの確実性が増します。また、職人さんたちがどこからやってきたかということもわかり、当時の職人さんたちの世界の一端を垣間見ることにもできるのです。



一の神殿の小屋裏には造営時の大工さんが描いたと思われる絵もありました

(石田 陽是)

参考文献 『阿蘇市文化財調査報告 第一集 阿蘇市指定有形文化財 阿蘇神社建造物調査報告書 一の神殿・二の神殿・三の神殿・楼門・神幸門・還御門』阿蘇市教育委員会生涯学習課・宗教法人 阿蘇神社、2006